

海外記事 幼稚園・小學校の初等年級のプロゼエクト

女兒に人形の家——男兒に飛行機——樂しき集り

女兒の人形の家

學年の始め幼稚園の殆半數の幼兒は始めて家庭を離れた子供達であるので、幼稚園で第一に取扱はふとする計畫は出来る丈子供達の家庭經驗に連絡を付けようと心掛け、室内で材料を持ち遊ぶ時の子供達の自然な傾向や興味に注意した結果、人形の家が女兒に計畫され飛行機が男兒に計畫されるに至つた。

新學期の第二日の朝早く保姆は子供達を呼びあつめて、以前に製作されてあつた種々の物を見せ、それに就いて皆で話し合たり、それで遊んだりさせた。その事が元に成て或る子供達は四つ五つの極く雑な紙の飛行機（二つの紙片を糊ではりつけたもの）と種々な色の紙人形の布圍とが出来た。その出来は大層雜なものではあるが子供自身の努

力であるので保姆は大に之を賞讃し男兒に飛行機の歌を唄つてきかした處子供達は大層興に乗てやがて保姆と一緒に唄ひはじん直きにそれを覺えてしまつた。その次の日保姆は多少誘導の意味で「誰が私達の飛行機に乗るだらうか」と云つた。女兒はすぐに人形を作り度いと云ひ出した、かうした自發的反動からして其次の日には輪廓を畫いた人形の紙が各々の机の上に置かれた。子供達は大層喜んでそれを剪り抜き色をつけた、創造的機會を與へる爲に保姆は種々な色の縮緬紙を渡した、子供達は其の中から自分の好きな色を選び人形に思ひくの着附をさせた。仕事が一くぎり終た時再び保姆は子供達を呼びあつめ先づ彼等の努力を賞讃して後批評した、まづ人形の髪の毛が紫や緑や青の色をして居たので「お友達同志お互に髪の毛をもらんなさい」と云つた。子供達はお互に見たり話し合つたりの結果、

こけ茶と黒と黄が髪の毛の色に適していると、いふ事に決定した。次に着物は手も足もくるんでしまつてあつたのが自分々々の着物を注意して見た後袖を付けたり裾を短かくする事を明瞭に知るようになつた。かく日毎に僅かの間を出して話し合ふ事に依て或る改善や進歩が加へられて行つた、保母は遊ぶ時と此の話し合ふ時に進歩の基礎を與へようと常に心掛けて居るのである。然し何時でも子供達は保母の間に對して必ず自分で考へて答るのである、此の話し合の時に保母は一番美しい人形を取り上げて「或時私は可愛い人形を持つてゐた」といふ歌をうたつた處女兒は一週間で皆その歌をうたへる様になり男兒までもそれを覺えた。

それから家具やお室が積木で造られ紙布圍が造り足されて人形の遊び場がおひくく創造されて行く。又人形も毎日靴下や下着が加へられ、それが各々着色されるまでになつた、着物はだんくく良いのが出来コートや帽子が作られた（自由表現として）。

或日机の上に一つも人形の型がなかつた、保母は「人形を書く時間がありませんでしたから今日は自分で書いて下

さいませんか」と子供達に頼んだ。子供達は驚く程上手に人形の輪廓を剪り上げたので再び保母は驚く必要が無かつた。

同様な方法で自由な試みの時にテーブルやテーブルかけ椅子皿等が造られた。積木の家は男兒が積木をのぞむ爲度々邪魔されるので女兒は積木の代りに家から帽子の箱を持って來た。ボール紙が餘り硬い時には保母が箱に窓穴をあける。紙製の家具が多く使はれた後ボール箱で椅子テーブルを作る之等の家具は持ちがよいので彩色された又家の床は茶色に塗られ壁は眞當の壁紙で貼り家の外側は白く塗り皺紙を赤く塗て屋根が出来、リボンレース布の見本をカーテンに用ひた（各自の好みに依て個性が表れてゐた）紙の花を庭に置き岩で小道を作た。庭の事に就いて話し合つた事から思ひ付いて子供達は實際に庭に花を植えた。家が出来上ると掃木を作て布の塵を掃除した又家が汚れると掃除日を作た。積木で百貨店を作り珠數珠を鑑にした。

男兒の飛行機

これと同時に男児は此の人形を乗せる飛行機を組立て居た、紙で作る事を暫く續けて後種々な繪をよく見てボール紙や木で爲はじめた(勿論自由表現として)飛行機には二つの翼がある、翼は機體より大い、尾の方が小さい、翼に二つの記號がある、操縦者とプロペラが要る、操縦者の席と乗客の席が要る操縦者は茶色の服を着てゐる等の事に就いて子供達と保母は皆で語り合ふそしてだんく正しい形に改善された。このボール紙と木とで二週間も試みた後保母は子供の力以上の高い標準を持たせる爲に木製飛行機の製り方を示す。子供達は板を十六インチに尾の方を四インチに翼を十二インチに鋸る(かくして十二インチが一フットに成る事を自然に學ぶ)又各翼の端を二インチに計て記しをつけ翼を正しい點に釘付けにする。子供達は各々飛行機を仕上た後室の隅に出來た工場で紙のお金五拾錢を受け取る、其後飛行機は又色を塗り合衆國郵便飛行機として女兒の處へ郵便を運ぶ。標は赤白青で乗席とプロペラと操縦者が加へられ格納庫が積木で造られた。

樂しき集り

之等の物が出來上ると人形の會と自分達の會を一處に開く事が決議された。皆大喜びで或子は嬉しいので自分の飛行機を種々な色紙の線で裝飾しはじめた、然し合衆國の郵便飛行機は赤白青だけで飾るべきだといふ事を皆が決めた。會の爲に愛國的の目覺める様な飾りが紙の鎖や線で出來た。人形は新調のよそ行の着物をきせられお玩具の皿には砂の御馳走が充された私達の御馳走には研究の爲庭に蜂を飼てあつたのでお菓子と一處に蜂蜜を用ひた。

効果

右の様なプロジェクトを幼稚園の要目に取り入れた利益を總括してみると、まづ子供達の經驗が廣められた——家飛行機、格納庫の種々な繪を見たり又苗床を見に行たり雜貨店へ出かけたります事——。

言語は、話し合の時に非常に發展した、完全な文章で話す事を教へられ又如何にして明白に自己を表現すべきかを

學んだ。又操縦者、格納庫、乗客、プロペラ等の單語を澤山覚え、お話を聞たり詩を學んだりした。

音楽では自分の作てる物に就いての歌を覺え心から興味の湧いた時にそれを唄た。

手工では鋸や槌の使用方を學び剪り貼り又クレイヨンの用方を學び就中創造的能力が進歩した。

計算では、貨幣の價值を知り十二吋が一呎の事や定規の用法を學んだ。

子供達は作つた物を持ち遊ぶ時劇的遊戲をした、人形は毎日飛行機に乗り人形の家は毎日掃除された（それは衛生に關した事である）

又禮儀の習慣が増した。即ち女兒の人形を飛行機に乗せる時男兒は、「私の飛行機にお乗りになりませんか」と云ふ事を、女兒は「有難う御座ます、何卒」といふ受方を覺えた。

子供達は保姆に尋ねるのに自分の番まで待たなければならなかつた。又一つの仕事に二時間も集注する事（室内に他人がは入て来るのも知らずに）を學び、一物に向て日

働き續けるのである忍耐を確得した。

又何も造らないと遊ぶのに何もないので仕事の價值を學んだ。

毎日休み時間に遊に出る前にはテーブルや室を掃き清めなければならぬので清潔を學んだ。

保姆は或日は女兒の爲に他日は男兒の爲に働いたので一方と働いて居る間他方は全然獨立で爲なければならなかつた爲に獨立獨行を學んだ。

蓋し子供達の學んだ最も價值ある事は一つの問題を考へそして、それを解決する方法であつた。そして實際、

「どうして人形を作らうか、飛行機の標をどうしようか、人形の他處行はどうしたら作れるか」といふ様な問題が毎日起つた。

右のプロゼエクトを實施するに當て保姆は或進歩に注意し母親達は家庭に於て子供に新しい性質の見える様になつた事を語つた。